



グリーン アドバイス

家庭菜園に挑戦

格別な味を楽しむトウモロコシ

板木技術士事務所 ● 板木利隆

きが良くないと思われるときには、開花した雄穂の下辺りを手のひらで軽くたたいて花粉を散らし、下方の雌穂に付きやすくしてやります。

葉の働き（光合成）を良くするため、下の方から出た脇芽は取り除かないで葉数を多くすること、雌穂は上の方の一番大きいもの1穂だけ残し、他の小さいものは取り除くこと、乾き過ぎたら適宜灌水（かんすい）することが大切です。

追肥は草丈40～50cmのころと、先端の雄穂が出始めたころの2回、化成肥料を与えます。量は1株当たり化成肥料大さじ1杯を目安としますが、前作の残肥が多くて葉の緑が濃く旺

追肥は草丈40～50cmのころと、先端の雄穂が出始めたころの2回、化成肥料を与えます。量は1株当たり化成肥料大さじ1杯を目安としますが、前作の残肥が多くて葉の緑が濃く旺

盛に育っていたら適宜減らしてください。
2回目の追肥の後、株元に小高くなるほど土寄せし、株元に出ている不定根を多く伸ばすようにして、風で倒れるのを防ぎます。
収穫は雌穂の毛（絹糸）の先が黒褐色に変色したころ（受粉後22～26日）です。握ってみて、先の方まで十分膨らんでいることを確かめてからもぎ取ります。

トウモロコシは色や品質の異なる品種が近くにあると、花粉親の影響が直接果実に表れるキセニア現象があるので、1カ所での栽培は1品種だけにすよう配慮します。

夏の魅力的な野菜ですが、甘味の糖分は、1日たつと呼吸による消耗とでぐんぐんに変化するため20～30%も落ちてしまい、みずみずしさも損ねるので、取れたての味こそ最高。近くの菜園で育てて格別の味を楽しみましょう。
高温好み（適温は22～30度）なので、十分暖かくなり、関東南部以西では5月上旬以降に種まきします。図のようにフィルムマルチをし、1カ所3粒まき、育つにつれて間引きし、草丈20cmぐらいになったら二本立ちにします。
粒がぎつしり付いた実入りの良いトウモロコシを得るには、雌穂に雄穂の花粉が十分付くことが大切です。そのためには株数を多く、1列植えよりも複数植えにした方がよいです。少ない株数で花粉の付

